

2026(令和8)年度
札幌大学転入学・編入学試験(11月)

リベラルアーツ専攻

小論文試験

【小論文テーマ】

紀元前5世紀の作とされる中国春秋時代の兵法書『孫子』は、「久しく師を暴さば則ち国用足らず」と指摘し、戦争を長引かせることによって国力を消耗する危険性について警告している。しかし、その後の歴史において、長期にわたる戦争は洋の東西を問わず繰り返され、今日においても絶えることがない。そのような戦争の実例を一つ挙げ、その戦争において、国力を消耗するおそれがあるにもかかわらず、当事者(国)が長く戦い続けようとした理由を多角的に推論し、その内容を1200字以内で論述しなさい。なお、実例は現在行われている戦争をとりあげてもよく、また、推論は独自の仮説を含めてもよいものとする。

【出題意図】

リベラルアーツ専攻の教育は、諸科学に親しみ、世界を視野に地域やビジネスの課題を解決するための思考力や対話力、行動力を身につけさせることを目標にしている。

その専攻教育への適性を判断するため、今回は①リベラルアーツの柱の一つである歴史に関する基礎的な知識、②その知識によって育まれる社会に対する関心、③それらに基づき課題の内容を読み解く力、④課題に対して持てる知識を駆使して多角的に推論する思考力、⑤自らの考えを論理的に表現する力を総合的に評価する論述式の出題とする。

【評価観点】

小論文は以下の観点をふまえ、総合的に評価する。

イ) 課題内容を適切に読み取れているか(出題意図①②③)

ロ) 考察が多角的かつ論理的になされているか(出題意図④)

ハ) 文章は適切な表現により構成され、所定の分量に収まっているか(出題意図⑤)

*配点は原則イロハの部分点が30点ずつ、全体的なまとまりを評価する総合点が10点とするが、イロハについて出来具合に偏りがある場合には、出来のよい部分の評価を割増すこともあるものとする。